



令和5年10月27日 愛媛県立伊予農業高等学校図書委員会発行

編集担当:31R 小笠原 春奈 31R 坂橋 葉瑠乃

# ライト・ニュース 10・11月号

朝夕は肌寒く感じられることも多くなり、ようやく秋の深まりを感じることができるようになりました。秋晴れの澄んだ空気を胸いっぱい吸い込むと、なんだかエネルギーが満ちてきて、色々なことに挑戦してみたくてきますね。3年生は就職や入試のための準備が本格化を迎え、1・2年生は、勉強や部活動が充実してくる時期です。

さて、秋といえば、「読書の秋」。読書週間が10月27日(金)から始まります。授業の前や秋の夜長は、本を読むにはぴったりです。心を整えて、静かに本と向き合ってみませんか。



## 第77回読書週間:10月27日(金)~11月9日(木)

標語:『私のペースでしおりは進む』

### 読書週間の歴史「読書推進運動協議会 HP より」

終戦まもない1947年(昭和22)年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日~11月9日(文化の日を中心にした2週間)と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことは変わりありません。

暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。



## ビブリオバトル☆伊予農チャンプ本決定戦(報告)

★ 10月6日(金)各種委員会の時間に開催しました。各学年代表2名計6名のバトルが参戦し、熱戦を繰り広げました。 ↓6名のバトルのみなさん(発表順)



★ 紹介本(発表順)は次の通りです。

『歪笑小説』	(東野 圭吾)	24R 池本 翼 さん
『歯車』	(芥川 龍之介)	22R 浅野 由里子 さん
『今夜、君の歌が聴こえる』	(いぬじゅん)	32R 高岡 理奈 さん
『今夜、もし僕が死ななければ』	(浅原 ナオト)	15R 石田 叶望 さん
『すずめの戸締り』	(新海 誠)	16R 堀川 真衣 さん
『それを世界と言うんだね』	(綾崎 隼)	31R 小笠原 春奈 さん

★ 激戦を制したのは、チャンプ本 31R小笠原さん、準チャンプ本 22R浅野さんでした。



↑バトルの様子。質疑応答も実施。



↑小笠原さん(左)・浅野さん(右)



## 図書委員おすすめ本!「読書の秋に読みたい本」

★ 31R 小笠原 春奈 さん おすすめ★

『それを世界と言うんだね』 綾崎 隼/著

★ 少女と王子と呼ばれる少年が、物語の中で不幸になったキャラクターを助けるため、そして自分の正体を知るために様々な物語に飛び込んでいくお話です。

『俺の残機を投下します』 山田 悠介/著

★ プロゲーマーを目指す主人公が、自分自身の残機と出会うことで大切なものを知り、自分勝手な自分を変えるためにもがいていくお話です。

★ 31R 坂橋 葉瑠乃 さん おすすめ★

『鹿の王』 上橋 菜穂子/著

★ 二人の男を中心としたストーリー。一人はピュイカと呼ばれる鹿を操る。もう一人は未知の病の原因究明に奔走する。

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』 汐見 夏衛/著

★ 第二次世界大戦末期の日本にタイムスリップした現代の女子中学生のストーリー。